

大地はなごやかに

(大正十四年開倉二十周年記念竊歌)

黒沢徹君 作歌

三溝清美君 作曲

一

大地はなごやかにうるほひて
丘陵の傾斜の若草や
さゆらぐ楡の嫩葉にも
春新生の精気は溢る
原始林の緑に流れ来る
嗚呼青春の讃歌

二

色紫の彩絹に
染めて溶けたる朝霧の
悠久の蒼穹はるかに
濃き水色にうつろへば
白鳥高く海に飛び
入江の波に夏陽は映ゆる

三

連嶺紅に黄昏れて
夕靄流る水沼の
白き葦穂波に顫ふ月
幽暗の草野に訪つれば
仄かに響く胸うち
高遠き感激に逍遙ふ哉

四

神秘の森林に群星さえて
雪の曠野遠く静謐なり
銀壺にゆるる灯に
崇き教訓を胸にして
心の憧憬郷にまどゐする
若き人等の哀歎よ

五

陽炎ゆらぐ春の日に
落葉しぐる秋の夜に
胸に高鳴る青春の
若き誇りを歌ひつつ
限れる生の瞬時を
深き瞑想到過ぎずや